

平成 21 年度 港南地域 総合相談窓口(フランチ)課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 21 年 10 月 7 日

課題	・担当（港南）地域高齢者の実態把握について
対象	・担当（港南）地域の高齢者
活動目標	・地域のふれあい食事サービス等に参加し、ネットワーク委員・民生委員との関係を深め、引き続き実態把握に努める。
活動内容 (具体的取り組み)	・担当地域内のふれあい食事会に積極的に参加し、地域ネットワーク委員・民生委員と情報交換を行い、一人暮らし高齢者及び自立されている高齢者の実態把握に努めた。 また、参加時には資料を配布し、講演会（健康、振り込め詐欺及び悪徳商法被害防止）を行った。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・本体の特別養護老人ホームの周知度が高く、窓口は十分な周知はなされていなかったが、ふれあい食事会等の参加及び地域ネットワーク委員・民生委員との関係を深めていくことで浸透しつつあり、地域ネットワーク委員・民生委員からの相談件数も増えてきている。 ・ふれあい食事会に参加されておられる方で、1名公正証書の作成について、支援中であり、引き続き状況把握に努める。 ・講演会により悪徳商法等の被害防止の一助ができています。
確認者コメント	施設中の高齢者が主に住んでいるので、地域に広がっていくことは、地域との関係と数に比例して高齢者の実態把握へとつながる
確認日 21年10月13日	
確認者 港南地域包括支援センター	
	☐ 地域性 ☒ 継続性 ☐ 浸透性（拡張性） ☐ 専門性 ☐ 独自性

平成 21 年度 十三 総合相談窓口(フランチ)課題対応取り組み報告書

報告書作成日：平成 21 年 10 月 22 日

課題	地域の年齢別世帯状況や地域性により、各地域の地域活動の取り組み対応状況に差が生じている。
対象	担当地域（十三・木川・木川南・西中島）
活動目標	担当地域を定期的に回り、各地域の状況を把握し支援・助言を行う。
活動内容 (具体的取り組み)	【担当地域での高齢者の集いの場への参加】 ・毎週 4 地域のネットワーク委員会を定期訪問し、情報収集を行う。 ・食事に定期訪問し、レクリエーションの実施・啓発活動・特定高齢者把握事業などの調査を行う。 (木川・十三・西中島地域は月 1 回、木川南地域は月 2 回行い参加出来ない方には配食も行う。) (十三地域では、認知症症状のある地域住民を毎月食事に同行。) 【単身高齢者に対しての取り組み】 ・大阪市一人暮らし等高齢者在宅支援事業の取り組みを、各地域にチラシを配布し希望利用者を募り、訪問・見守り事業を行う。 【大阪市家族介護支援教室事業の取り組み】 ・毎月、当施設において講師を呼び介護予防を目的とした教室を開催する。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・地域に密着して各地域の行っている事などを他の地域に伝える事で、これからの地域活動対策などに助言・提案ができた。 ・定期的に食事に参加する事で、地域とのつながりが強くなった。 ・単身高齢者世帯への訪問や介護支援教室事業を行う事で、単身高齢者に社会資源などの情報提供や閉じこもり防止に対する支援を行う事ができた。
確認者コメント	■ 地域性 各地域の小さな行事にも頻繁に出席することを長年 ■ 継続性 継続して地域役員だけでなく住民とも馴染みとな ■ 浸透性(拡張性) り、身近な存在で地域にとけこんだ関係づくりができて □ 専門性 いる。 □ 独自性 数値では表すことのできない地域の特徴をふまえなが 地域支援を行っている。
確認日 21 年 10 月 22 日	
確認者 淀川区地域包括支援センター	

平成 21 年度 全 地域総合相談窓口(ﾌﾗﾝﾁ)課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 21 年 9 月 30 日

課題	認知症を患われる方が多くなってきている中で、徘徊されるケースがしばしば見られる。最終的には、警察等に発見いただく事が多いが、福祉関係の事業所等が連携し、少しでも早く発見することによって身の安全を確保することが重要である。こうした場合、見守りネットワーク構築が必要であり、地域在宅サービスステーションが役割を担うだけでなく、「多様な関係機関との連携」、「区民への啓発」が課題となる。
対象	区内全域の徘徊された高齢者等を見守る区民、地域組織、多様な関係機関。
活動目標	認知症の理解を深め、徘徊者の見守りを通じて、認知症になっても安心して生活できる地域づくりの一助となることをめざす。
活動内容 (具体的取り組み)	平成 20 年度地域在宅サービスステーション連絡会で、認知症のある方が徘徊した時の見守りネットワーク構築に関して提案があり検討された。そうしたネットワークの必要性に関しては各地域在宅サービスステーションの賛同を得た。具体的にネットワーク構築を進めていくためには、地域在宅サービスステーションが役割を担うだけでなく「多様な関係機関との連携」、「区民への啓発」が重要である。「連携」、「啓発」「ネットワーク構築」はすぐにできるものではないが、実現に向けた取り組みを継続していくことが求められる。以上の検討プロセスを踏まえ 21 年度は認知症見守りネットワーク構築を一步、前に進めるために、できるところから「みんなで見守る認知症—徘徊・・・見守り便利帳—」の作成を検討することになった。これは区民を対象に「徘徊」への対応に関して理解を深めてもらうとともに認知症、特に「徘徊」への関心を啓発する目的で作成したものである。 ① リーフレット「みんなで見守る認知症—徘徊・・・見守り便利帳—」の作成。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	3000部を印刷し、医師会、歯科医師会、薬剤師会、区役所・出張所、図書館、プールなどの公共機関、各地域在宅サービスステーション、居宅介護支援事業所連絡会、地域ネットワーク委員会、民生委員、家族会、キャラバンメイトに配付し広報啓発を行なった。
確認者コメント	■ 地域性 各地域、区域でのネットワーク構築を志向している。 □ 継続性 ■ 浸透性（拡張性）地域在宅SSが核となり裾野を広げていく。 □ 専門性 ■ 独自性 地域住民、多様な関係機関を対象としている。
確認日 21 年 9 月 30 日	
確認者 島村郁子 東淀川区 地域包括支援センター	

平成 21 年度 中島地域総合相談窓口課題対応取り組み報告書

報告書作成日 平成 21 年 10 月 9 日

課題	地域の一人暮らし高齢者は、生活に対しての不安を抱えているケースが多い。常日頃から声かけ、見守りを行う中で、相談しやすい環境を整えることが必要である。 高齢者が意欲的に暮らせるような取り組みが必要である。
対象	地域の高齢者。
活動目標	地域の高齢者が安心して暮らせるように、相談の窓口としての機能を強化していく。個別訪問を充実させていく。
活動内容 (具体的取り組み)	① 一人暮らし高齢者見守り活動を行う。 月 2 回の定期訪問。 ② 地域の高齢者の電話訪問を行う。 電話訪問を月 1 回行い、希望がある場合には自宅訪問を行う。 ③ 地域の高齢者に向けた 取り組みを行う。 上半期については、9 月 15 日にカラオケ大会を飛鳥健康管理センターで開催する。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	① 契約世帯の方が要介護になられたため、大阪市の事業内容としては終了したが、ご本人が介護サービスを拒否されているため、当面は見守り活動は継続する予定。 ② 電話訪問については、2 年間継続しており、その間に介護認定を受けられた方も多い。現在は 13 人の独居高齢者に対して行っており、体調が悪化した場合などは連絡があるため、相談の窓口として定着している。 ③ 地域のカラオケサークルの方を中心に、飛鳥健康管理センター独自の取り組みとして、カラオケ大会を開催。50 名ほどが参加。
確認者コメント	■ 地域性 担当地域での見守り体制と相談できる環境づくりに努めている ■ 継続性 継続的に取り組みを進めている。 ■ 浸透性 (拡張性) 相談窓口の定着化が図られてきた。 ☐ 専門性 ■ 独自性 見守りとのつながりを進める手段として「カラオケ大会」を実施している。
確認日 21 年 10 月 9 日	
確認者 島村郁子 東淀川区 地域包括支援センター	

平成21年度玉津地域総合相談窓口(ランチ)課題取組み報告書

報告書作成日:平成21年9月30日

課題	①地域で要援護者をサポートするにあたり、専門職以外の地域住民の支援が欠かせないが、その担い手になるべき地域住民の介護に関する知識や、認知症の理解等の啓発・普及が不可欠である。 ②地域住民が要援護者となることなく、生き生きとした生活を送ることができるように、閉じこもり予防や、あらゆる世代が互いにふれあえる場をつくる。	
対象	地域住民	
活動目標	①地域住民の介護保険などの制度や、介護や認知症に関する知識の理解、普及を進めていく ②住民同士の関係づくり、集まる場や、機会の提供を行い、楽しんでふれあえる場づくりを拡げる	
活動内容	①-1 北中道生涯学習推進委員会、北中道ネットワーク推進委員会と共催し、定期的に介護等に関する講座や、勉強会を開催する。(北中道地域集会所、北中道小学校利用) * 回覧板等による周知行う。 ・平成20年度2月28日 10:00~12:30 簡単調理教室 (北中道小学校) ・平成20年度3月14日 14:00~15:30 「介護保険について学ぼう」(北中道地域集会所) ・平成20年度3月21日 14:00~15:30 「排泄ケア 適切なオムツ、パットのしよについて」 ・平成20年度3月28日 14:00~15:30 「認知症について理解しよう」(北中道地域集会所) ・平成21年度6月13日 14:00~15:30 「介護予防に取り組もう」(北中道地域集会所) ・平成21年度8月22日 14:00~15:30 「認知症サポーター養成講座」(北中道地域集会所) ・平成21年度10月31日 14:00~15:30 「福祉用具体験講座」(予定 北中道地域集会所) ①-2 女性会と連携した勉強会を行う ・平成21年度6月19日 14:00~15:30 「介護保険について」(ハミングベル中道 生活支援ハウス) ・平成21年度7月19日 14:00~15:30 「排泄ケアについて」(北中道地域集会所) ・平成21年度9月18日 19:00~20:30 「認知症について」(北中道地域集会所) ② -1 ハミングベル中道生活支援ハウスにて毎週定期的にクラブ活動を実施 ・水曜日 14:00~15:00 頭の体操クラブ ・金曜日 14:00~15:00 音楽クラブ ・第四金曜日 14:00~16:00 ふれあい喫茶 ②-2 区役所住民スペースにて音楽療法士による『ふれあい音楽サロン』を実施 ・平成20年度6月より月一回、11月までの全6回実施(第三水曜日)12:00~13:30 ・平成21年度9月より月二回、11月までの全6回実施(第二、第三水曜日)14:00~15:30 * 区民だより、各ネットワーク推進員への周知を行う。	
成果	① 講座や勉強会を地域住民対象に行っていくことで理解の普及が少しずつ進み、地域住民からの要援護者に対する相談が増えている。アンケート等から「介護」や「認知症」を身近なものと考えて、自分にできることをしていきたいという意見も多く出た。 ② 参加者同士がクラブや音楽サロンを通じて繋がり、①②のそれぞれの参加者が相互発展的・横断的に出席され、仲間の輪が広がると同時に、互いに勉強した内容等を波及させている。	
確認者コメント	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☐ 浸透性 (拡張性) ☒ 専門性 ☒ 独自性	① 地域住民の既存する会とタイアップして講座を開催することで、関心の多い住民層にもアプローチができ、高齢者の問題は地域で考える機会となっている ② 音楽を媒体として、高齢者がいそいそと生活を楽しめるよう働きかけることか介護予防につながっている

報告書作成日：平成 21 年 10 月 8 日

課題	① 単身高齢者及び引きこもり高齢者の把握 ② 地域による見守り体制構築と本人の地域参画 ③ 単身高齢者の緊急時に備えた体制	
対象	圏域内の単身世帯の 2 号被保険者。心身の状態から見守り援助が必要であるが、介護保険など制度利用に考えも及んでいない 62 歳の女性。	
活動目標	区画整理などで地域とのつながりが希薄になる中、引きこもり又は独居等で実態把握のできていない高齢者との接点を持ち、地域行事参加など地域との関係づくりができるよう支援する。	
活動内容 (具体的取り組み)	金銭管理や身の回りのことができなくなり不安を抱え、近隣の方を頼るようになり、その方から地域役員に相談があった。それを受け地域役員が度々足を運び見守りを実施し、また介護保険を含めた公的制度利用を促していた中、動けない状態となった為、近隣の方からご本人の多額の現金の預かりを地域役員が依頼され、ランチに相談があった。地域役員に同行しアセスメントを行い、心身の衰弱とリウマチの治療の為の通院の援助や金銭管理を含めた生活支援を行うこととなる。支援体制を整える中、ご本人自ら腹部を自傷する行為をし、見守りに来た地域役員の通報により救急搬送される。傷の入院処置後、自宅に戻るが精神状態の安定の為、精神科への受診の促しから入院までの援助を行った。 治療後の自宅への復帰を含め、今後も地域と連携を取り対応していくことを確認し経過見守り中である。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・ 地域との連携、役割分担を確認し、協同で支援できたこと。 ・ 地域と協同で、金銭管理などのインフォーマルサービスの確認を行い、関係機関と調整できたこと。 ・ 一命を取りとめることができたこと。 ・ 65 歳以下の方への協同支援を行ったこと。	
確認者コメント	高齢者に限らず、地域と矢に支援を継続して いく事での見守り体制の強化が促えす。 二り連携体制が続く事により、安心できる 街づくりへとつながり、いく事を期待します。	
確認日		21 年 10 月 10 日
確認者		生野区 地域包括支援センター

平成 21 年度 生野区田島地域 総合相談窓口(ランチ)課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 21 年 10 月 1 日

課題 生野南地域へ 啓発活動	①平成 11 年 12 月に田島地域（田島小学校地域・生野南小学校地域）の在宅介護支援センターの指定を受けたが、生野南小学校地域への啓発活動が進んでいない。
対象	①生野南小学校地域における様々な関係者。
活動目標	①生野南小学校地域におけるランチの啓発活動。 ②生野南小学校地域での家族介護支援教室・特定高齢者把握のための講演会の開催。
活動内容 (具体的取り組み)	①家族介護支援教室など、地域での啓発活動を行うにあたって、町会長・女性部長・ネットワーク推進員との関係を築く。 社会福祉協議会の地域活動担当に、現状を伝え、地域の関係者を紹介してもらうことになる。 8 月 5 日に社会福祉協議会の地域活動担当と地域包括支援センター職員とで生野南小学校地域のふれあい事業「喫茶」に参加。その際、社会福祉協議会の地域活動担当より、町会長・女性部長・ネットワーク推進員を紹介して頂く。啓発活動を行いたい旨も伝える。女性部長より、過去に行った教室の内容を後日、教えて欲しいと話が出る。 ②家族介護支援教室・特定高齢者把握のための講演会の開催に向けて。 8 月 24 日に地域ケア会議開催。地域包括支援センター職員とネットワーク推進員参加。過去に行った教室の内容を書面で渡し、9 月の地域の話し合いにて議題に出してくれることになる。 現在、家族介護支援教室の開催を生野南小学校地域にて検討中。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	①生野南小学校地域の町会長・女性部長・ネットワーク推進委員との関係が築けた。 ②地域ケア会議を行うことが出来た。 (家族介護支援教室・特定高齢者把握のための講演会の開催について)
確認者コメント	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 (拡張性) ☐ 専門性 ☐ 独自性
確認日 11 年 10 月 10 日	高齢者への介護・福祉の普及の重要性を、地域ケア会議を通じて広める事に、支援の輪を広げ、地域との連携体制を築く事で、今後の様々な活動が期待できる。
確認者 生野区 地域包括支援センター	

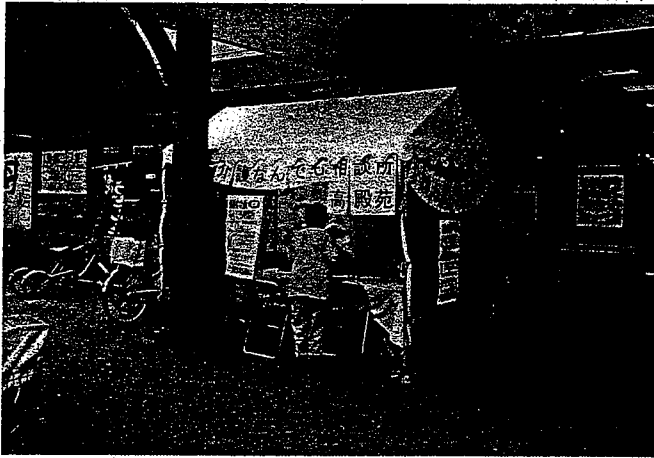
平成 21 年度 新生野総合相談窓口(ブランチ)課題対応取り組み報告書

報告書作成日：平成 21 年 10 月 1 日

課題	・高齢化が進んで来た中で、日々の生活においてゴミの分別が出来なくなったり、何度も同じ話をする、と言った相談が目立つようになってきた。 ・地域福祉に関わる民生委員の方が、認知症への対応をどうすれば良いか困っている様子が伺えた
対象	①巽東の民生委員 ②東小路の民生委員
活動目標	・認知症の方が住みなれた地域で疎外感をうけることなく、生活ができるように、民生委員の方への認知症について理解していただく。
活動内容 (具体的取り組み)	①民生委員の方が集まる場で、認知症についての勉強会を開催する。 (巽東・東小路共に年に一回ずつ) 認知症についての症状や対応方法等を説明し、認知症についての理解を深め、近隣住民の方から相談があった場合に、対応に困らないように事例をあげての話し合いを行なう。 また、介護予防についての必要性も説明する。 ②地域の方で何か相談があった場合、民生委員と同行訪問し、一緒にアセスメントを行ない必要なサービスをつながながら、地域の方との見守りを行なう。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・この一年間で、地域の民生委員や推進員や地域住民からの相談等が増加。 ・民生委員連絡会で継続的な勉強会を行なう。 巽東地域：H20 年度 10 月、12 月、H21 年度 9 月開催 東小路地域：H20 年度 10 月
確認者コメント	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 (拡張性) ☐ 専門性 ☐ 独自性 これらの様々な働きかけが、高齢者支援に対する理解をより深める事となり、地域全体に、より積極的な活動展開へと広がっています。
確認日	21年10月10日
確認者	生野区 地域包括支援センター

平成 21 年度 旭陽 総合相談窓口(ブランチ)課題対応取り組み報告書

報告書作成日：平成 21 年 10 月 9 日

課題	日々の活動の中で、介護について悩みを持っている地域住民が、どこに相談に行けばいいのかわからないということが伺えた。	
対象	地域住民（高齢者やそのご家族）	
活動目標	この地で行ってきた高齢者介護のノウハウを地域で活用していただくために、地域へ情報の発信を行う。	
活動内容 (具体的取り組み)	月に一回（10：00～16：00）、関西スーパーと日程調整を行い、高齢者介護に関する相談所「介護何でも相談所」を開催している。 	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	平成 17 年より続けていることで、地域に定着し、相談件数が増加した。一人暮らしの高齢者が立ち寄り、身の上話をしていくなど、気軽に立ち寄れる相談所として定着してきた。	
確認者コメント	015 施設内でのみの相談にとどまらず、地域に出かけることにより、総合相談窓口のPRになっている。スーパーで行うということにより他の地域にも展開するセンターになる。	
確認日		21 年 10 月 9 日
確認者		旭陽 地域包括支援センター
	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☐ 浸透性（拡張性） ☐ 専門性 ☐ 独自性	

平成 21 年度 旭東総合相談窓口(ブランチ)課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 21 年 10 月 10 日

課題	新森・清水地域は高齢者が多い地域である。最近、ADL は自立しているが、認知症の高齢者が顕著に見られる。誰にも頼れない単身高齢者や認知症への対応がわからず困惑している介護者に対して在宅生活を継続するために、どう支援していけばいいか。
対象	新森・清水地域の高齢者世帯及び単身高齢者世帯
活動目標	認知症があっても住み慣れた我が家での生活を継続させること。
活動内容 (具体的取り組み)	○単身高齢者 ひとり暮らしの見守りを開始。2週間に1回の定期訪問では見守りが不十分で、毎日訪問をしなければならないケースもあったが、訪問を重ねていくうちに精神状態が安定し、日常生活も落ち着いていった。その後、介護保険を申請し、認定が下り介護サービスの利用へと繋いで行った。今でも時折、訪問することがあるが、在宅生活は安定している。 ○高齢者世帯 認知症の高齢者に対しては、民生委員やネットワーク委員と連携を図り、徘徊に備えて情報を共有し援助できる体制を作った。また、介護者に対しても介護に対する不安や悩みを傾聴し、問題点を上げ、解決方法について情報提供や関係機関へと繋いで行った。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	ふれあい喫茶やふれあい型食事サービスにおいて、「ひとり暮らしの見守り」への取り組みの啓発を行い、作成したチラシも持ち帰ってもらった。その後、数名の方から見守りを依頼したいと返答があった。また、町会長は良い施策だと感心され、町会に回覧してくれたり、女性部長は対象となる高齢者を紹介してくれた。
確認者コメント	■ 地域性 ■ 継続性 □ 浸透性 (拡張性) □ 専門性 □ 独自性 「ひとり暮らしの見守り」の事業展開を行っている、地域と連携をとりながら活動を行っていくことは今後この地域の見守り体制への一助になっていく。
確認日	21年10月20日
確認者	旭東地域包括支援センター